
閉会挨拶

藤田佳久

〈愛知大学大学院長・COE 事業推進担当者〉

昨日から始まりまして今まで、時間になると結構長い時間だと思いますが、非常に多くの方々にご参加いただき、最後の最後まで熱く議論していただきまして、我々としても非常に刺激的な2日間を送ることができたと思っております。そういう点ではこれをプロモートされた ICCS の方々、及び加々美先生等に、厚くお礼を申し上げたいと思っております。

ところで、せっかくですので、簡単に少しだけ話させて頂きます。昨日の経済の問題ですと MDI の問題がございまして、そういう点では、いわゆる外国資本あるいは外国資本に絡めた企業が今日の環境の問題とどう関わっていくのか、というのをまた一つ知りたいなと思った次第でございまして。私は地理学が専門でありまして、今日のような問題に関して、地理学のイメージでどう捉えるかということを考えておりました。これまで中国は都市と農村は完全に分離されてきたと、農村の人たちが都市に来るといような動きは禁じられていたと捉えられておりました。しかしそれが今、ほとんど自由化されて、いってみれば、ただその距離がだいぶ遠いわけですが、都市が初めて農村と関係を持つようになったということです。都市農村関係という問題がでてきたのです。都市農村関係のいわゆる都市圏、日本ではもう当たり前の話ですが、これは中国にとっては初めての経験になるでしょう。

つまり都市と周辺地域の一体化といいますか、そういう空間の中で、この環境問題というものを考えられないだろうか、そんな問題もあります。日本もいま市町村の合併問題に揺れていますけれども、最近、中国は各省のなかの大きな市を中心として、かつての県を吸収して、既に大きな枠を作っております。そういう中でこの問題も多少関わるとは思いますが、都市農村関係の中で環境問題、農村の問題は都市に反映する、都市の問題はダイレクトに農村に反映するということを考えますと、その辺の地域の設定の中で具体的な問題が、非常にはっきり見えてくるのではないかということをお聞きしたいと、考えながら、お聞きしたいとさせていただきます。これは余分な私の個人的な感想でございます。

2日間にわたりまして大変多くの方々にご参加いただきまして、特に中国をはじめ、欧米の方々にもご参加いただけて、大変熱心にご討議いただけたことを嬉しく思います。これを今後ぜひ結びたいと思ひ、ぜひ来年もお願いしたいということでご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。